ミズアオイ　*Monochoria korsakowii* Regel et Maack

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 16。全国的に減少傾向の著しい湿地性～水生植物で、愛知県でも減少傾向が著しく、安定した自生地はすでになくなっている。

【形　態】

1 年生草本。茎は多孔質でやわらかく、高さ 20～40cm になる。葉は根生または茎上に互生し、根出葉の柄は長く 10～30cm、茎葉の柄は短く 5～10cm、葉身は心形、長さ 5～10cm、幅 4～8.5cm、先端は鋭尖頭、基部は心形、辺縁は全縁、質は厚く、表面は深緑色で光沢がある。花期は 9～10 月、茎の先に総状花序を作り、花は直径 1.5～3cm、花被片は 6 個で青紫色、基部まで離生し、楕円形、長さ 15mm 程度である。果実は蒴果で卵状長楕円形、長さ約 10mm、先端につの状の花柱が残り、熟すと下向きになる。

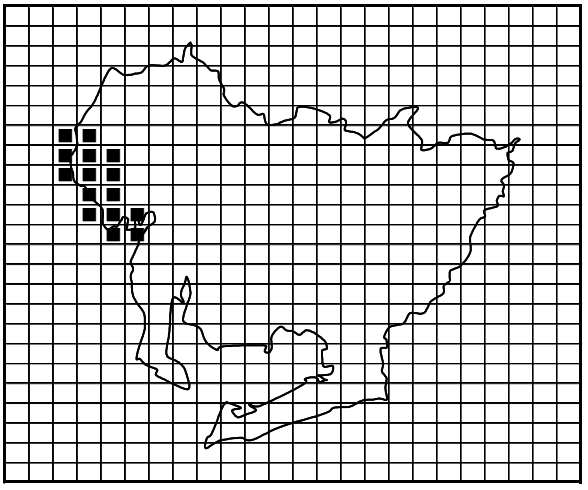
【分布の概要】

【県内の分布】
比較的最近では、尾：57b 愛西（旧八開村給父, 山田茂貴 1158, 1996-9-23；旧立田村富安, 山田茂貴 890, 1993-11-7）、58b 弥富（鯏浦, 高木順夫 1502, 1991-10-6）の 2 区画で確認されている。50 名古屋北部（北区楠町, 井波一雄 s.n., 1967-10-15, CBM165374）で採集された標本もある。西：30 岡崎南部（上地町, 芹沢 87338, 2011-9-11）でも見ているが、これは移入の可能性が高い。

【国内の分布】
北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】
日本、朝鮮半島、中国大陸、ウスリー。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

平野部の水田や､低湿地のやや攪乱された場所などに生育する。

	山 地	丘 陵	平 野	海 浜
森 林				
草･岩				
湿 地			○	
水 域				

【現在の生育状況／減少の要因】

かつては湿田の雑草であったらしいが、乾田化により急激に減少したと言われる。最近では河川敷の攪乱地で 3 回と休耕田で 1 回、一時的に生育したものが確認されているにすぎない。弥富では高さ 2m に達する個体が群生していたが、翌年には全く見られなかったそうである。埋土種子集団を作る植物なのでそのうちにどこかでまた出現する可能性はあるが、現在のところ県内で確実に自生集団を観察できる場所はない。

【保全上の留意点】

本種のような不安定な立地に生育する植物は、保全対策が極めて立てにくい。はっきり認識できないうちに絶滅という事態は、十分に考えられる。保険的措置として、人為的な系統保存を考慮する必要がある。

【特記事項】

和名は、水湿地に生育し、葉がフタバアオイに似ているからである。

【関連文献】

保草本Ⅲp.171, 平草本Ⅰp.59, 平新版 p.270, SOS 旧版 p.96.